

屋久島町の世界遺産学習

世界自然遺産を生かした「屋久島型 ESD」の推進

屋久島町教育委員会

1. はじめに

本町は、九州本土の最南端、佐多岬の南方 60 km にあり、東シナ海の洋上に浮かぶ「屋久島」と、その西北約 12 km に位置する「口永良部島」の 2 島からなっている。屋久島の中央部には、九州最高峰の宮之浦岳（1936m）を始め、1000m を超す山々が 46 座もあり、「洋上のアルプス」とも呼ばれている。昭和 39 年には「霧島屋久国立公園」に指定され、平成 19 年 3 月には口永良部島も編入された。そして、平成 24 年 3 月に、30 番目の国立公園、「屋久島国立公園」として独立したところである。また、平成 5 年 12 月には、「日本の自然景観の重要な要素であり、固有植物であるスギの優れた生育地であることや各地で急激に減少している照葉樹林が原生状態で残されていること、生物地理学上の境界にあつて垂直分布を代表する植物相の多様性が見られること」などの評価を受け、白神山地とともに日本で初めて世界遺産リスト（自然遺産）に登録され、令和 5 年に 30 周年を迎えた。

このように、先代から引き継がれてきた自然環境と環境の恵みを大切に、その価値を更に高めていくことが持続可能な社会（屋久島）を形成することにつながると考え、毎年、積極的に ESD（持続発展教育）に取り組んでいる。



【縄文杉】

2. 教育目標

学校は、家庭、地域、地域社会との密接な連携のもとに、基礎・基本の確かな習得や、他人を思いやり、協調し、共に感動する人間性とたくましく生きるための心や体を育むことを通して、「あしたをひらく心豊かでたくましい人づくり」を基本目標としている。

3. 教育委員会・学校での取組

教育委員会

(1) 屋久島型 ESD に関する研修会の開催

屋久島型 ESD についての基本的なとらえ方や本町で推進していくための方向性を策定し、小・中学校管理職研修会や担当者研修会において説明・意見交換等を行っている。

(2) 実践記録集の発行

実践の交流と研究・実践の更なる深化、関係機関への情報発信等を目的として、取組内容をまとめた実践記録集を毎年発行している。



【R5 実践記録集】

(3) 町 ESD 実践推進校（研究協力校）の指定

(4) ESD ウィークを設定（2月）

- ・ 学校間交流会議（島内サミット）を実施

(5) ESD ティーチャープログラムへの参加（希望制） （奈良教育大学・近畿 ESD コンソーシアム主催）



【学校間交流会議の様子】

学校での実践例【屋久島町立神山小学校】

第6学年では、「生かそう屋久島の魅力・創ろう、わたしたちの未来」のテーマのもと、これまで身に付けてきた探究的な見方・考え方を働かせ、目的や根拠を明らかにしながら屋久島の未来像について考える学習を行っている。そうすることで、屋久島の魅力や課題の再発見や、人・もの・こととのつながりについて理解することをねらいとしている。

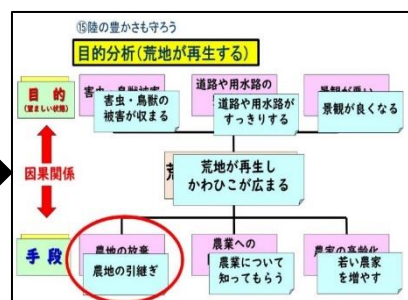
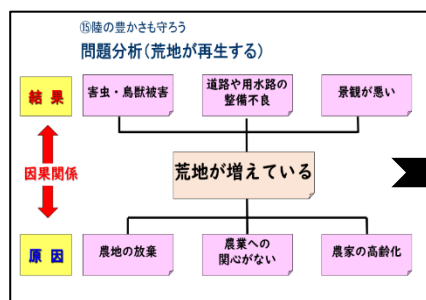
【(1年間を通した)単元の目標】

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
屋久島の魅力や課題、それらと人・もの・こととのつながりについて理解し、未来の屋久島や将来の自分の姿を思い描きながら自分たちの活動をまとめ、発信することができる。	自然・産業・伝統など屋久島の魅力やSDGsの取組を幅広く捉え、課題を見だし解決するための方策を考えたり、必要な情報を整理・分析したりしてまとめることができる。	屋久島の未来について他者と協働して積極的に社会参画し、将来の自分について理想の姿を思い描き、それに向けて行動することができる。

【荒地再生プロジェクト】

昨年度に取り組んだ「かわひこ（伝統野菜）広めようプロジェクト」の活動をもっと促進させたいという思いから、SDGs15「陸の豊かさを守ろう」に焦点を当て、荒地となっている土地を開拓し、そこにかわひこを植える「荒地再生プロジェクト」を立ち上げ、活動を行った。

問題分析や目的分析を行うことで、具体的に自分たちにできることや、今後取り組みたいことを明確にすることを大切にしている。



【ゲストティーチャー招聘】



【「世界自然遺産登録30周年記念シンポジウム」に参加し、屋久島内外の人に向けて自分たちの取組を発表】

【今後の課題】

各学年での学びがその年で終了するのではなく、これまでの学習で得た資質・能力を活用しながら、次年度へと生かしていけるようなカリキュラムの充実を更に図っていく必要がある。

4. おわりに

下の文は、屋久島町が目指す「子供の姿」である。これが、本町のESDの目標にもつながっている。屋久島には、素晴らしい自然遺産がある。子供たちには、この自然遺産を通して、それを守り受け継いできた人々の思いや願いを学び、そして、いつまでも屋久島のもつ価値を高めてほしいという願いから、本取組は始まっている。今後も、屋久島の子供たちに、持続可能な発展に関する価値観や具体的な行動力を身に付けられるよう、SDGsの理念と屋久島型ESDの融合を図っていきたいと考える。

- 1 屋久島が好きだという子供（自分のふるさとを大切にし、ふるさとに生きる子供）
- 2 自分の言葉で語れる子供（知識ではなく、知恵を身に付けた子供）
- 3 自分が大好き（大切に）、周りの人も大好き（大切に）という子供
- 4 自分の命は自分で守れる子供（危機管理ができる子供）
- 5 将来の夢（目標）をもった子供（人生設計ができる子供）